



平成25年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年5月8日

上場会社名 工藤建設株式会社
 コード番号 1764 URL <http://www.kudo.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 工藤 英司
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 秋澤 滋
 四半期報告書提出予定日 平成25年5月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 045-911-5300

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年6月期第3四半期の業績(平成24年7月1日～平成25年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第3四半期	10,227	△1.1	△36	—	△161	—	△141	—
24年6月期第3四半期	10,337	△2.1	329	△32.3	187	△45.3	94	16.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年6月期第3四半期	△10.93	—
24年6月期第3四半期	7.28	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第3四半期	13,703		2,210			16.1
24年6月期	12,168		2,378			19.5

(参考) 自己資本 25年6月期第3四半期 2,210百万円 24年6月期 2,378百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期	—	—	—	5.00	5.00
25年6月期	—	—	—	—	—
25年6月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年6月期の業績予想(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,171	12.3	550	△1.6	400	7.0	229	△10.2	17.66

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は【添付資料】3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年6月期3Q	13,312,200 株	24年6月期	13,312,200 株
25年6月期3Q	338,490 株	24年6月期	337,387 株
25年6月期3Q	12,974,091 株	24年6月期3Q	12,975,652 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、詳細は【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績等に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報等	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政権交代による経済政策への期待感から円安の進行、株価の上昇が一段と進んだことを背景として、輸出企業を中心に受注や採算の改善等がみられたものの、欧州における財政問題の長期化懸念や中国を含む新興国の経済成長の減速等により、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

建設・不動産業界におきましては、住宅ローン減税や住宅取得等資金に係る贈与税非課税措置延長等の住宅関連の施策効果もあり、新設住宅着工戸数、貸家着工戸数ともに対前年比で改善傾向にありますが、雇用・所得環境は依然として厳しい状況であり、住宅取得意欲の本格的な回復には至りませんでした。

また、介護業界におきましては、団塊の世代が後期高齢者となる平成37年（2025年）を見据え、国が推進する地域包括ケアシステムの実現を目指して、定期巡回・随時対応型訪問介護看護や複合型サービスが実施に移されております。また、当第3四半期会計期間より職業能力のレベル認定制度「キャリア段位制度」がスタートし、「介護プロフェッショナル」が対象業種となったことにより、「キャリア」や「能力」が評価される社会の実現への動きが進められております。

このような情勢の中、当社は、神奈川県・東京都を中心とした営業エリアにおいて、お客様の感動を創造し、人生のさまざまなステージを支える生活舞台創造企業を目指して事業展開を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高102億27百万円（前年同期比1.1%減）、営業損失は36百万円（前年同期は営業利益3億29百万円）、経常損失1億61百万円（前年同期は経常利益1億87百万円）、四半期純損失は1億41百万円（前年同期は四半期純利益94百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

① 建設事業

建設部門では、賃貸住宅および分譲マンションのリニューアル事業に積極的に取り組みました。また、戸建住宅部門では、「陽の当たる地下室」や「ガーデンエクステリア」にも注力して販売拡大に努めてまいりました。

しかしながら、想定を上回る労務費の上昇等によるコスト増加もあり、当事業の売上高は40億75百万円（前年同期比6.8%減）、営業損失は19百万円（前年同期は営業利益3億2百万円）となりました。

② 建物管理事業

建物管理部門、賃貸管理部門、家賃管理部門のいずれも、管理物件数は増加したものの、賃料水準の減少傾向が続いており、空室率は横ばいの状況が続きました。

以上の結果、当事業の売上高は24億25百万円（前年同期比3.7%減）、営業利益は1億21百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

③ 介護事業

介護部門では、開設から2年経過した「フローレンスケア宮前平」の稼働率が85%まで改善するなど、有料老人ホーム9施設の稼働率は94%で安定的に推移しております。しかしながら、職員に対する賞与額および賞与引当金繰入額が予想より増加したこと等により人件費が増加しました。

以上の結果、当事業の売上高は26億64百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は1億13百万円（前年同期比29.4%減）となりました。

④ 不動産事業

マンション分譲事業である、横浜市鶴見区の「フローレンスシティ横浜生麦公園」の引き渡しを開始されました。一方、戸建分譲事業である、横浜市港北区の「ヒルタウン横浜小机」は第3期の販売中です。

以上の結果、当事業の売上高は10億62百万円（前年同期比23.3%増）、営業利益は96百万円（前年同期比54.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債および純資産の状況

(資産の部)

当第3四半期会計期間末における資産の残高は137億3百万円（前事業年度末残高121億68百万円）となり15億34百万円増加しました。その主な要因は、現金預金が6億26百万円増加し、未成工事支出金が11億44百万円増加したことにあります。

(負債の部)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は114億92百万円（前事業年度末残高97億90百万円）となり17億2百万円増加しました。その主な要因は、未成工事受入金が15億20百万円増加したことにあります。

(純資産の部)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は22億10百万円（前事業年度末残高23億78百万円）となり1億68百万円減少しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金同等物は16億42百万円（前第3四半期累計期間は18億67百万円）となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動におけるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億40百万円プラス（前第3四半期累計期間3億48百万円プラス）となりました。主な増加要因は未成工事受入金の増加15億20百万円であります。

（投資活動におけるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億57百万円マイナス（前第3四半期累計期間3億47百万円マイナス）となりました。主な減少要因は定期預金の預入による支出2億24百万円であります。

（財務活動におけるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億54百万円プラス（前第3四半期累計期間9億46百万円プラス）となりました。主な増加要因は長期借入金の借入による収入12億50百万円であります。

（3）業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、現時点では当社を取り巻く今後の経済情勢および、市場動向が不透明な為、通期業績予想の修正はしておりませんが、今後随時見直しを進め、適時適切に開示してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より平成24年7月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1,616,916	2,243,129
受取手形・完成工事未収入金等	855,888	734,408
未成工事支出金	636,331	1,781,266
不動産事業支出金	1,214,659	941,274
貯蔵品	6,178	8,970
その他	505,184	674,417
貸倒引当金	△4,058	△9,653
流動資産合計	4,831,102	6,373,813
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,509,344	1,509,344
その他	1,052,059	1,039,354
有形固定資産合計	2,561,403	2,548,699
無形固定資産		
242,163		201,212
投資その他の資産		
差入保証金	3,531,122	3,469,434
その他	1,122,069	1,230,570
貸倒引当金	△119,070	△120,721
投資その他の資産合計	4,534,121	4,579,283
固定資産合計	7,337,687	7,329,195
資産合計	12,168,790	13,703,009
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	977,426	1,079,101
短期借入金	523,400	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,384,490	1,036,060
1年内償還予定の社債	107,600	57,600
未払法人税等	25,823	4,575
未成工事受入金	888,857	2,409,194
完成工事補償引当金	77,096	82,214
その他	734,280	640,219
流動負債合計	4,718,973	6,508,965

（単位：千円）

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成25年3月31日)
固定負債		
社債	184,000	126,400
長期借入金	2,925,570	2,924,330
長期預り保証金	1,859,415	1,811,927
退職給付引当金	61,900	59,282
その他	40,767	62,091
固定負債合計	5,071,653	4,984,030
負債合計	9,790,626	11,492,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	867,500	867,500
資本剰余金	549,500	549,500
利益剰余金	1,043,025	836,398
自己株式	△87,185	△87,327
株主資本合計	2,372,839	2,166,071
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,324	43,942
評価・換算差額等合計	5,324	43,942
純資産合計	2,378,163	2,210,013
負債純資産合計	12,168,790	13,703,009

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
売上高		
完成工事高	4,833,815	4,453,962
不動産事業売上高	2,920,145	3,109,470
介護事業売上高	2,583,663	2,664,179
売上高合計	10,337,624	10,227,611
売上原価		
完成工事原価	3,980,990	3,888,657
不動産事業売上原価	2,684,248	2,824,101
介護事業売上原価	2,259,178	2,361,350
売上原価合計	8,924,717	9,074,108
売上総利益		
完成工事総利益	852,824	565,305
不動産事業総利益	235,897	285,369
介護事業総利益	324,184	302,829
売上総利益合計	1,412,906	1,153,503
販売費及び一般管理費	1,083,623	1,189,711
営業利益又は営業損失(△)	329,283	△36,207
営業外収益		
受取利息	9,721	9,510
受取配当金	4,464	4,363
助成金収入	5,200	986
その他	10,306	6,100
営業外収益合計	29,693	20,960
営業外費用		
支払利息	159,017	134,006
その他	12,278	12,231
営業外費用合計	171,296	146,238
経常利益又は経常損失(△)	187,680	△161,485
特別利益		
保険解約返戻金	6,383	—
固定資産売却益	426	—
特別利益合計	6,810	—
特別損失		
減損損失	87,412	—
ゴルフ会員権売却損	3,500	—
特別損失合計	90,912	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	103,577	△161,485
法人税、住民税及び事業税	8,822	6,134
法人税等還付税額	—	△11,832
法人税等調整額	247	△14,035
法人税等合計	9,070	△19,733
四半期純利益又は四半期純損失(△)	94,506	△141,752

（3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 （自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日）	当第3四半期累計期間 （自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 （△）	103,577	△161,485
減価償却費	116,937	116,211
減損損失	87,412	—
貸倒引当金の増減額（△は減少）	752	7,246
工事損失引当金の増減額（△は減少）	△30,005	—
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△5,419	△2,618
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△82,500	—
完成工事補償引当金の増減額（△は減少）	2,444	5,117
受取利息及び受取配当金	△14,186	△13,873
支払利息	159,017	134,006
固定資産売却損益（△は益）	△426	—
ゴルフ会員権売却損益（△は益）	3,500	—
売上債権の増減額（△は増加）	△197,679	116,257
未成工事支出金の増減額（△は増加）	△12,504	△1,144,934
不動産事業支出金の増減額（△は増加）	228,988	273,385
仕入債務の増減額（△は減少）	158,847	101,675
未成工事受入金の増減額（△は減少）	93,314	1,520,337
不動産事業受入金の増減額（△は減少）	△40,250	△16,099
その他	△53,546	△232,306
小計	518,273	702,919
利息及び配当金の受取額	7,693	7,435
利息の支払額	△165,682	△146,606
法人税等の支払額	△11,636	△23,096
営業活動によるキャッシュ・フロー	348,649	540,651
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	110,063	175,012
定期預金の預入による支出	△313,373	△224,663
有形固定資産の取得による支出	△243,168	△53,545
有形固定資産の売却による収入	115,500	—
投資有価証券の取得による支出	△400	△100,532
長期貸付けによる支出	△4,270	—
長期貸付金の回収による収入	2,337	1,385
その他	△14,539	44,939
投資活動によるキャッシュ・フロー	△347,848	△157,403
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額（△は減少）	218,700	676,600
長期借入れによる収入	1,610,000	1,250,000
長期借入金の返済による支出	△739,219	△1,599,670
社債の償還による支出	△77,600	△107,600
自己株式の取得による支出	△118	△141
配当金の支払額	△64,879	△64,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	946,882	154,314
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	947,683	537,562
現金及び現金同等物の期首残高	919,508	1,105,282
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,867,192	1,642,845

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）セグメント情報等

I 前第3四半期累計期間（自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				合計	調整額(注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	建設事業	建物管理事業	不動産販売 事業	介護事業			
売上高							
(1)外部顧客 への売上高	4,372,815	2,519,522	861,623	2,583,663	10,337,624	-	10,337,624
(2)セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	-	-	-	-	-	-	-
計	4,372,815	2,519,522	861,623	2,583,663	10,337,624	-	10,337,624
セグメント利益	302,432	110,981	62,666	160,525	636,606	△307,322	329,283

(注) 1. セグメント利益の調整額△307,322千円は、各報告セグメントに配分していない全

社費用であり主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「建物管理事業」セグメントにおいて、固定資産賃貸物件について87,412千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				合計	調整額(注)1	四半期損益計算書計上額(注)2
	建設事業	建物管理事業	不動産販売事業	介護事業			
売上高							
(1)外部顧客への売上高	4,075,546	2,425,399	1,062,487	2,664,179	10,227,611	-	10,227,611
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	4,075,546	2,425,399	1,062,487	2,664,179	10,227,611	-	10,227,611
セグメント利益又は損失(△)	△19,214	121,146	96,511	113,346	311,789	△347,997	△36,207

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△347,997千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。